

読賣新聞

2009年(平成21年)

7月22日 水曜日

30年以内に震度6弱以上

政府の地震調査委員会は21日、今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率を地域ごとに算出した、新しい地震動予測地図を公表した。これまで1キロ四方ごとだった揺れの予測を250米四方に変更。地盤の軟弱度も同様に細かく算出したため、昨年公表した地図に比べて30年前後確率が上下した地域が出ている。計算方法の更新により、震度分布に「震度7」を加えることも可能になった。

都道府県庁所在地の市庁舎周辺別で確率をみると、千葉市が64%(昨年比37%増)、横浜市が67%(同34%増)、津

千葉市
64%
横浜市
67%

新計算法で予測

◆地震発生確率が大きく上昇した都道府県庁所在地

所在地 (市役所の位置)	2009年 (%)	2008年 (%)	上昇幅 (ポイント)
1 奈良	67.1	16	51.1
2 千葉	64	27.2	36.8
3 大阪	59.5	23	36.5
4 横浜	66.7	32.9	33.8
5 大分	48.3	15.7	32.6
6 宮崎	45.5	13.3	32.2
7 水戸	31.6	8.3	23.3
8 津	85.2	62.5	22.7
9 高松	40.7	21.4	19.3
10 徳島	59.9	46.5	13.4

市が85%(同23%増)、甲府市が55%(同27%減)となっている。

全国各地の確率は、防災科学技術研究所のホームページ (<http://www.jshis.bosai.go.jp/>)で見ることができる。